

報道関係者各位

2021.3

嵯峨嵐山文華館

「絵でよむ百人一首と源氏物語」 企画展開催



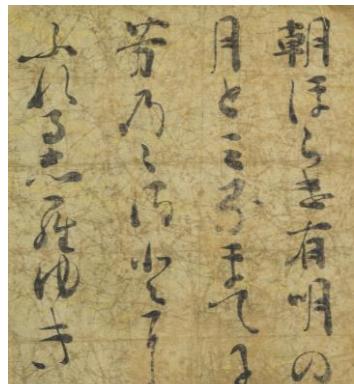
左／池田孤邨「三十六歌仙図」、右／藤原光貞「伊勢物語」（3幅中）

百人一首とは『古今和歌集』『新古今和歌集』など、10冊の勅撰和歌集の中から合計100首を選出した秀歌撰のことです。鎌倉時代の歌人、藤原定家が嵯峨野の山荘に住む宇都宮頼綱のために撰出したといわれており、その山荘は当館からほど近い小倉山にあったといわれていることから、ここ嵯峨嵐山は百人一首の聖地となっております。

このたび当館にて、競技かるたのタイトルホルダーたちが集う「第2回ちはやふる小倉山杯」が開催されるにあたり、「絵でよむ百人一首と源氏物語」展を企画いたしました。

優雅な和歌と、百人一首に撰ばれた歌人でもある紫式部が記した源氏物語の世界を、日本画を通してお楽しみいただければと存じます。

伝 藤原定家
「小倉色紙 〈朝ほらけ〉」



日時	2021年3月1日(月)～2021年4月11日(日) ※緊急事態宣言の解除に伴い日程変更となりました 10:00～17:00 (最終入館16:30)
休館	毎週火曜日 ※但し2/23(火・祝)は開館、2/24(水)は休館
料金	一般・大学生 ¥900(800)/高校生 ¥500(400)/小中学生 ¥300(250) 障がい者と介添人1名まで ¥500(400) ※()内は20名以上の団体
主催	嵯峨嵐山文華館・京都新聞
後援	京都府、京都市教育委員会、京都商工会議所

第1章（1Fギャラリー）／絵でよむ百人一首

梅の香りに昔を思い、つかの間の再会を雲間の月に例える。百人一首に撰ばれた歌からは、自然の風物に感情を揺さぶられる、古人の姿が浮かび上がってきます。

川合玉堂筆《紅梅・白梅屏風》、長沢芦雪筆《朧月紅葉図》、今尾景年《旭稚松鶏・梅花孤亭・竹林飛泉図》など、あたかも百人一首の歌の題材として描かれたような作品を通じて、歌に込められた思いを感じてみませんか。古の歌人たちと、江戸時代以降の画家たちとの、時を超えたコラボレーションをお楽しみください。



左から、今尾景年「旭稚松鶏」、川合玉堂「紅梅・白梅屏風」、伊藤小坡「貝合わせの図」（部分）

第2章（2F畳ギャラリー）／源氏物語の世界

百人一首の撰者である藤原定家には『源氏物語』の研究家という一面もありました。源氏物語は紫式部が記した原文が残されておらず、定家は当時出回っていた写本を比較し、校訂したことで知られています。昨年、定家の自筆による書き込みが含まれた「若紫」の写本が約80年ぶりに発見され、大きな話題となりました。こうした古人の努力もあり『源氏物語』は世界最古の女流文学作品として、1000年もの間読み継がれてきました。本展示室では『源氏物語』に関する作品として、狩野山楽《源氏物語押絵貼屏風》、狩野興也筆《源氏物語六条院庭園図巻》、原在中筆《葵祭図巻》などを展示いたします。江戸時代の絵師たちが描いた物語の世界をお楽しみください。



原在中「葵祭図巻」下巻_14（部分）

紫式部と源氏物語

『源氏物語』の作者として広く知られる紫式部は、10世紀後半、藤原為時の末娘として生まれました。幼少期から天才肌で、当時の女性としては異例であった学問に励み、儒教、歴史、漢詩など、様々な分野の書物を読破。歌の才能にも恵まれた上、仮名使いや琴、琵琶まで長けていたといわれています。

結婚後は子宝にも恵まれましたが、わずか3年で夫が逝去。宮中に移り、当時太政大臣であった藤原道長の娘・中宮彰子に仕えます。この時に執筆されたのが『源氏物語』でした。『源氏物語』は約70年にわたる光源氏と彼をめぐる人々の生涯を描き切った大河小説で、総勢500人以上もの人物が登場します。宮中における生活や、貴族たちの行動をつぶさに描写しており、当時はもちろん、鎌倉時代から現在に至るまで時代を超え、今や世界中で愛される文学作品となりました。



狩野山楽「源氏物語 押絵貼屏風」（部分）

作品総数：25点（常設展展示作品を入れると35点）／初公開作品：9点

担当学芸員：阿部亜紀（あべ あき）

<嵯峨嵐山文華館概要>

■名称：嵯峨嵐山文華館／Saga Arashiyama Museum of Arts and Culture

■住所：〒616-8385 京都府京都市右京区嵯峨天龍寺芒ノ馬場町11

■電話番号：075-882-1111 (FAX) 075-882-1103

■メールアドレス：support@samac.jp

■ホームページ：<http://www.samac.jp>

■運営：公益財団法人小倉百人一首文化財団

■交通アクセス：JR山陰本線「嵯峨嵐山」駅下車、徒歩14分／阪急嵐山線「嵐山」駅下車、徒歩13分／嵐電（京福電鉄）「嵐山」駅下車、徒歩5分

■設立：

2006年「百人一首殿堂 時雨殿」として設立

2011年 一時休館

2012年 リニューアルオープン

2017年 一時休館

2018年 11月1日「嵯峨嵐山文華館」としてリニューアルオープン



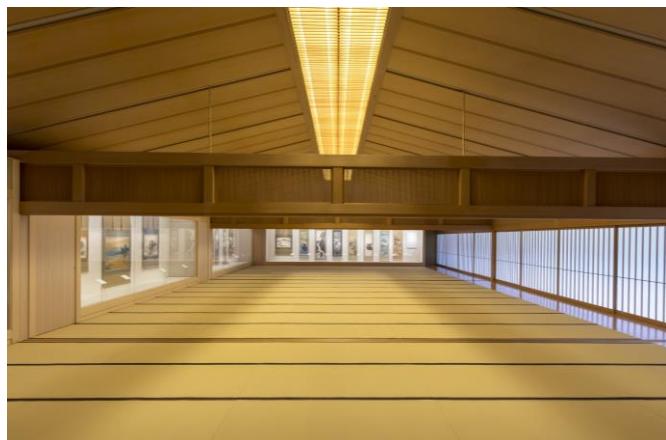
嵯峨嵐山文華館について

百人一首の歴史と日本画の粋を伝えるミュージアム

1000年以上も前から、歌枕として詠まれ、愛されてきた嵯峨嵐山の風景。当館はこの地で誕生したと伝えられる百人一首の歴史やその魅力と、日本画の粋を伝えるミュージアムです。石段を上がり、冠木門をくぐって足を踏み入れると、春はしだれ桜、初夏はサツキツツジ、秋は紅葉、冬は冠雪と、四季の美しさを楽しめる石庭。

百人一首ゆかりの小倉山を背にし、古来より著名な景勝地であった嵐山・大堰川を借景として取り込んだ、二階からの眺めはまさに日本画の世界のようです。

美しい自然とともに、誰もが日本の美を身近に感じ楽しめるよう、シーズン毎に心ときめく企画展と知的好奇心を満たすイベントをお届けいたします。



1F常設展示では100体の歌仙人形（フィギュア）と百人一首の英訳が並び、藤原定家によって百人一首が選ばれた時から昨今人気の競技かるたに至るまでの変遷をご紹介。

また2Fには120畳の広々とした畳ギャラリーは、じっくり座って自由に鑑賞することも可能。石庭を望む明るいテラスにはカフェスペースが設けられており、景色を楽しみながらお寛ろぎいただけます。



プレス用画像一覧



01_川合玉堂「紅梅・白梅屏風」
(通期展示)



02_今尾景年
「旭稚松鶏」
3幅中
(通期展示)



03_長沢芦雪「朧月紅葉図」
(通期展示)



04_池田孤邨「三十六歌仙図」
(通期展示)

05_伊藤小坡
「貝合わせの図」
(通期展示)

プレス用画像一覧



06_藤原光貞「大納言経信」
3幅左（通期展示）



07_藤原光貞「伊勢大輔」
3幅中（通期展示）



08_藤原光貞「在原業平」
3幅右（通期展示）

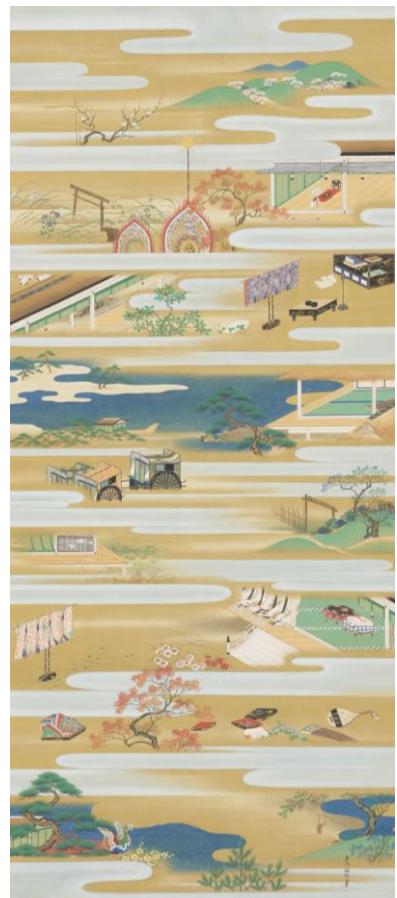


09_狩野山渠「源氏物語 押絵貼屏風」
(通期展示)

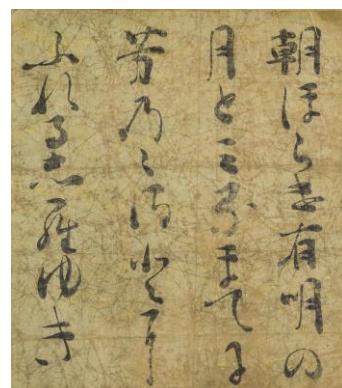
プレス用画像一覧



10_狩野興也「源氏物語六条院庭園図巻」
(通期展示)



12_伝 藤原定家「小倉色紙 朝ほらけ」
(通期展示)



11_玉圓永信
「源氏五十四帖図」
右幅 (通期展示)

本展に関するお問い合わせ

嵯峨嵐山文華館 広報事務局 (ワインダム内)

TEL 03-6661-9448 FAX 03-3664-3833
Email samac@windam.co.jp

〒103-0014 東京都中央区日本橋蛎殻町1-28-9-4F
「嵯峨嵐山文華館」広報事務局
担当：沼澤、多田